【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成25年3月14日(2013.3.14)

【公開番号】特開2011-162907(P2011-162907A)
【公開日】平成23年8月25日(2011.8.25)
【年通号数】公開・登録公報2011-034
【出願番号】特願2010-26235(P2010-26235)
【国際特許分類】
Ｄ０２Ｇ　1/00　(2006.01)
Ｄ０３Ｄ　15/04　(2006.01)
Ｄ０３Ｄ　15/00　(2006.01)
Ｄ０１Ｆ　6/60　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｄ０２Ｇ　1/00　ＺＢＰ
Ｄ０３Ｄ　15/04　１０２Ｚ
Ｄ０３Ｄ　15/00　Ａ
Ｄ０１Ｆ　6/60　３５１Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成25年1月29日(2013.1.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
硫酸相対粘度が２．０～３．５、Ｍｗ／Ｍｎが１．５～３であるポリアミド５６からなるフィラメントであって、以下の特性を有することを特徴とする捲縮糸。
５％伸長応力：０．２～１．０ｃＮ／ｄｔｅｘ
沸騰水収縮率：１～１５％
伸縮復元率：１０～５５％
吸放湿性パラメーター△ＭＲ：３％以上
【請求項２】
１０％伸長回復率が８０％以上であることを特徴とする請求項１記載の捲縮糸。
【請求項３】
アミノ末端基濃度が２５～８０ｅｑ／ｔｏｎであることを特徴とする請求項１又は２記載の捲縮糸。
【請求項４】
アミノ末端基濃度とカルボキシル末端基濃度が以下の関係を満たすことを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の捲縮糸。
０．５≦［ＮＨ２］／［ＣＯＯＨ］≦２．０
［ＮＨ２］：捲縮糸のアミノ末端基濃度（ｅｑ／ｔｏｎ）
［ＣＯＯＨ］：捲縮糸のカルボキシル末端基濃度（ｅｑ／ｔｏｎ）
【請求項５】
捲縮糸が仮撚加工糸であることを特徴とする請求項１～４のいずれか１項に記載の捲縮糸。
【請求項６】
請求項１～５のいずれか１項に記載のポリアミド５６がバイオ由来の化合物を用いて合成

されたものであることを特徴とする捲縮糸。
【請求項７】
請求項６に記載のバイオ由来の化合物がグルコースおよび／またはリジンであって、該化合物を酵素反応、酵母反応および発酵反応から選ばれる１つ以上の反応によって合成された１，５ペンタメチレンジアミンをジアミン成分として重合したポリアミド５６を用いていることを特徴とする捲縮糸。
【請求項８】
請求項１～７のいずれか１項に記載の捲縮糸を含有することを特徴とする繊維構造体。